巻頭特集　老舗バッグメーカーから誕生した自社ブランド

BORSACASA

大手バッグメーカーやセレクトショップの製品をつくるメーカーだった有限会社ルックが、長年培った経験と技術、個性あふれるデザインを掲げ立ち上げた新ブランド・ボルサカーサを紹介する。

バッグメーカーのファクトリーブランド「BORSACASA」

有限会社ルックは1986年に名古屋市に設立された革バッグメーカーで、大手バッグメーカーやセレクトショップのOEM（他社ブランドの製品を製造）を行ってきた。OEMの製作は、メーカーで作られた製品がお客様の手元に届くまでに、問屋、小売店といくつものチェックに通過できる高いクオリティが必須である。また近年では、海外の製品も増えたことで、価格競争の煽りを受け、国内のバッグメーカーが激減しているが、35年以上にわたり、今もなお日本のバッグメーカーとして存続しているのは、ルックに確かな技術がある証である。

そんな中、有限会社ルックのファクトリーブランドとして、2010年に自社ブランド「BORSACASA」（ボルサカーサ）が立ち上がった。近年は時代の流れもあり、個人商売として革製品を製作している人が多いが、ボルサカーサは、バッグメーカーとして確かな技術と機械設備を持ち、メーカーとしてのプライドを大切に日々製作に励んでいる。

「私たちの目の届く自社工場で全てを製作する事により、一貫したモノ作りが可能となっています。」そう語ってくれたのは、ボルサカーサの小川浩幸さん。

イタリア語でBORSACASAは、「かばんの家」という意味で、モノを作ることが好きな人のための場所でありたいというコンセプトで名付けられた。小川さんは「私はモノ作りをする光景を幼い頃から見て育ってきました。名古屋に歴史あるバッグ製造メーカーが存在する事を、自社ブランド『BORSACASA ボルサカーサ』を通じてたくさんの人に知ってもらいたいと考えています。また同時に、〝私が幼い頃から見続けてきた革製品を作る、あの風景（仕事）をこれから先も残したい〟という思いがあります」とも話してくれた。

使うほどしなやかに味が出るイタリア輸入革を使用

ボルサカーサは工房での作業だけでなく、作り手自身が販売員として店頭に立つことを大事にしている。それは作り手としてお客様に自分たちのモノづくりについて想いを直接伝えていきたいから。そして、お客様の好みや要望を直接耳にすることで、商品作りに活かす糧となるからである。

そんなボルサカーサでは商品の企画から裁断、縫製、仕上げ、販売まですべての工程を自社で行っている。

まず、製品の品質を語る上で欠かせないのが使用している革素材である。ボルサカーサで使う革は北欧諸国の寒冷地で育った、きめの細かい最高級の牛原皮で、その中でも最高級とされる胴部分（ベンズ）のみを使用。さらに、イタリア・トスカーナ地方に伝わる「バケッタ製法」と呼ばれる植物タンニン100%で鞣した革「オイルドバフ」の使用にこだわっている。化学物質であるクロム鞣しに比べ、革本来のキズや色ムラがあり、摩擦で色落ちする場合があるという、欠点とも受け取れそうな性質ではあるが、あえてこの素材を使うのは、使い込むことで色が深まり、光沢が出るという経年変化を楽しめるから。使う人によって味や表情が変わることが革製品の本来の醍醐味なのだ。カラー展開はバッグではブラック・ブルチャット・アンバーの3色、小物類は定番の3色に加え、アガベ・ジャングル・サファリの6色となっているが、古城店ではオーダーメイドでお好みのカラーを選択することも可能である。

information
BORSACASA
清須市西枇杷島町古城2丁目24－8
052-908-1865
営業時間10:00～18:30
https://www.borsacasa.com/

どちらも同じ革を使用。使い続けるうちのこんなに変化!

裁断から仕上げまで、数多くの細かい作業をすべて自社で行う

最高のパーツが製品をさらに引き立てる

革製品メーカーゆえ、革素材にこだわりがあるのは当然であるが、ボルサカーサではそれ以外に使用するパーツにもこだわっており、リピーターであるお客様からはシンプルなデザインのバッグや財布でも一目見て「ボルサカーサの商品だ！」とわかる人は多いという。

まずはバッグには裏地が施されていること。内装に生地が貼ってあることで、革の粉が荷物につくのを防いだり、内側にファスナーポケットやオープンポケットをつけることが可能となる。生地は本来洋服の表地に使われるものを使用しており、ブルーと白のストライプが特別感とワクワク感を演出する。

金具は革と同じく使い込むほどに経年変化が楽しめる真鍮素材を使用。ジッパーは1930～1950年代のものをリアルに復刻した「WALDES Zipper」とエレメントひとつひとつの全面に入念な磨きをかけた、金属ファスナーの中でも最高峰にあたるYKK EXCELLA Zipperを使用している。

バッグ　㊤バッグにはすべてストライプの裏地を使用　㊨オール革素材のリュックサック

キズやシミを怖がらず、使いこむことこそ革製品は引き立つ

バッグから財布、キーケースといったすべての商品で「ボルサカーサ」のデザインの特徴を表すのが太い糸で刻まれたステッチではないだろうか。使用している糸は「皮革用ミシン糸の本格派」といわれるランドセルでも使われる高品質の糸で、絹の風合いがあり、強度も抜群。手縫いと同じ太さの「極太糸0番」と「太糸5番」をメインに使用している。特別な飾りは一切なく、どれもシンプルなデザインなのに、気品と高揚感が伝わってくるのはなぜだろう。

「バッグメーカーとして長年培ってきた経験と技術はもちろんですが、やはり我々は直接お客様とお会いしていろんなお話を聞かせていただくことで、いろんなアイデアが浮かび、それがカタチになっていると思います」と小川さんは言う。ボルサカーサではデザインだけでなく、使い心地にも追及。パーツにより革の厚みを変えたり、使用過程におけるほつれを防ぐため、型紙を起こす段階から考慮しているという。

心配事のひとつとなるキズも、ボルサカーサの革は油分をたくさん含んでいるため、硬めの馬毛ブラシでこすることでひっかき傷程度なら消すことが可能。水に濡れるとシミになりやすいが、経年変化で色が濃く光沢が増すため、次第に目立たなくなるという。それよりも、大切にしすぎて箱に入れたままにしておくことが一番悪く、使うことで変化する表情を楽しんでほしいという。

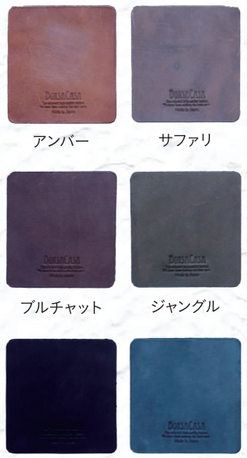
現在、ボルサカーサの商品は清須の工房をはじめ、ジャズドリーム長島、9月末までの期間限定で名古屋栄・ラシック6Fで購入が可能。これまでは名古屋や関西方面への展開が中心だったが、今後は東京、いや全国に展開できるのが夢だと語る。だがその前に、最近増えている女性客向けに、可愛いデザインの商品化も進めているのだそう。

名古屋を代表するバッグメーカーへの確立に向け、一歩一歩進行中である。

人気商品　長財布

㊤仕切りの革を切りっぱなしのタイプと折り返して処理したタイプがある　㊨1930～1950年代のものをリアルに復刻した「WALDES Zipper」を使用

カラー展開



アンバー　サファリ　ブルチャット　ジャングル　ブラック　アガベ